

2011年4月18日 ITCN 夜の集会メッセージ

「十戒・恵の始発駅」

聖書箇所：出エジプト20：1－6

- 1：それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。
- 2：「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。
- 3：あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない。
- 4：あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。
- 5：それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、私を憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、
- 6：わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

3つのポイント：

- (1) 十戒はまず恵みありき
- (2) 唯一の神を神とせよ
- (3) 偶像を避けよ

メッセージ骨子：

<序論> 私はチャールトンヘストン主演の『モーセの十戒』という映画を、母に連れられて子供の時に観ましたが、あの紅海の割れるダイナミックなシーンに興奮して、そのあとの十戒のことは何も覚えていません。でもそれでいいのだと思います。私たちは十戒と聞くと、「アレするなコレするなとうるさいな」と思ってしまいがちですが、それに先立つ神の恵みを知ることの方が、もっと大切だと考えるからです。

<ポイント1> 「十戒はまず恵みありき」

イスラエルの民は、エジプトにおける400年の過酷な奴隷生活から解放された恵みに感謝し、その神の愛に応えるべく戒めを求めました。神はイスラエルの民を守り、彼らを幸せにするために、十の戒めをお示しになりました。私には大学生と高校生の娘が3人います。彼女たちが小さいとき日曜の夜の家庭礼拝というものを始めましたが、それは**20年**経った今も続いています。そしてその習慣が、これまでどれだけ悪しきものから彼女たちを守り、支えてきたかと思うとき、主の戒めは、私たちを守りたい、幸せにしたい、その思いからすべてがスタートしたのだと分かります。

<ポイント2> 「唯一の神を神とせよ (第一戒)」

エジプトにはファラオの像が国中にあり、天と地と水の中のあらゆる動物が崇拜されていました。天地万物の創造主である神を、被造物と同格に扱うというのは、神に対する失礼

極まりない行為です。自分の親を無視して、赤の他人を「おとうさん、おかあさん」と呼ぶことは、とんでもない親不孝ですが、更に1ランク下の「被造物」を神として拝むのは、まるで隣の飼い犬に「お父さん」と呼びかけるようなもの。人「を」造られた神と、人「が」造った神。一文字違いですが中身は大違いです。

<ポイント3> 「偶像を避けよ (第二戒)」

出エジプト後しばらくすると、水はない、食べ物はないと、文句を言う人たちが現れました。モーセに反抗し、イスラエルの民を扇動した人たちは「エジプトに帰りたい。こんなところで死にたくない」とある意味変なリーダーシップを発揮しました。彼らはおそらくエジプトにいた時から有能で、奴隷ながらも重宝された人たちだったでしょう。エジプトで住んでいた時の家、食べ物、豊かな生活は、ある時から彼らにとっての偶像となり、彼らを誘(いざな)っていたのでした。仕事、健康、家族、権力、お金、ポジション…すべて神の下さった素晴らしいものばかりですが、これが神以上の存在になったとき、それは偶像となり、肉鍋となり(民111：18)、あなたを「あともどり」させるから要注意です。

<まとめ> ウソをつくな、盗むな、姦淫するな・・・私たちにはもともと十戒を成し遂げる力はありません。でもその失敗や、無力さを補うために、イエス様が十字架に掛かってくださいました。10個のブランコを飛びきれなくても、眼下にはイエス様が命を懸けて張ってくださった安全ネットがあり、私たちを守ります。どんな落ち方をしても、下まで落ちないようになっています。人生のフィナーレでは、こんな私たちも全部を飛び切った「ブランコ名人」として、光の中で、舞台の真ん中で、表彰していただけるのです。